曽我物語　八

857
92

取扱注意
帙入

857-92

曽我物語巻之第八目録

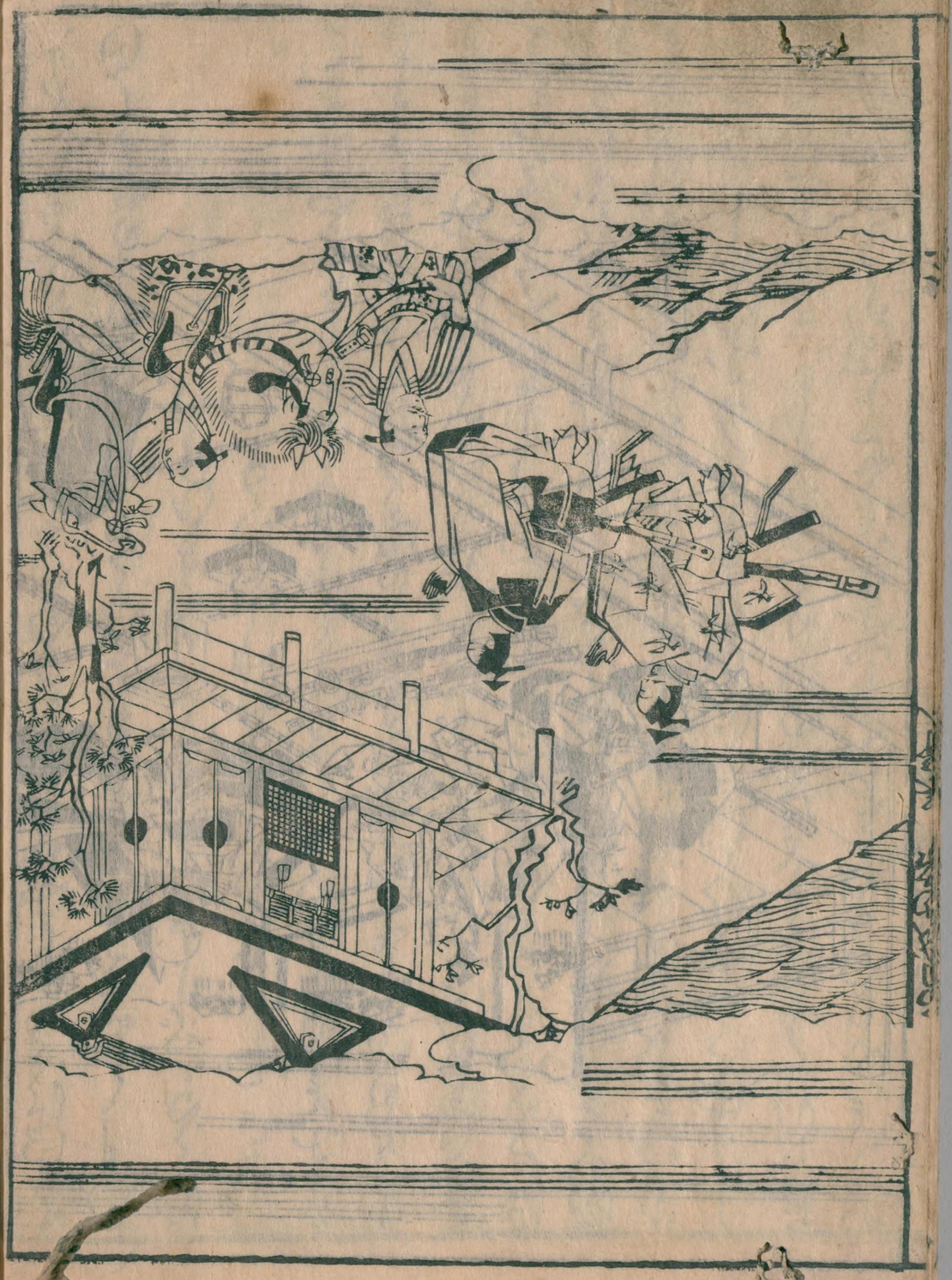
一　はこねにていとまごひの事
二　おなじくべつたうにあふ事
三　たちかたなのゆらいの事
四　みしまにてかさがけをいる事
五　うらしまがことの事
六　ふじのゝかりばへの事
七　ぎんざとおげやもぢがちゝろんの事
八　さんのくぶんだいの事
九　みやこがぢてふの事
十　うまのをじまはりの事
十一　をけつまぎとがんとせし事

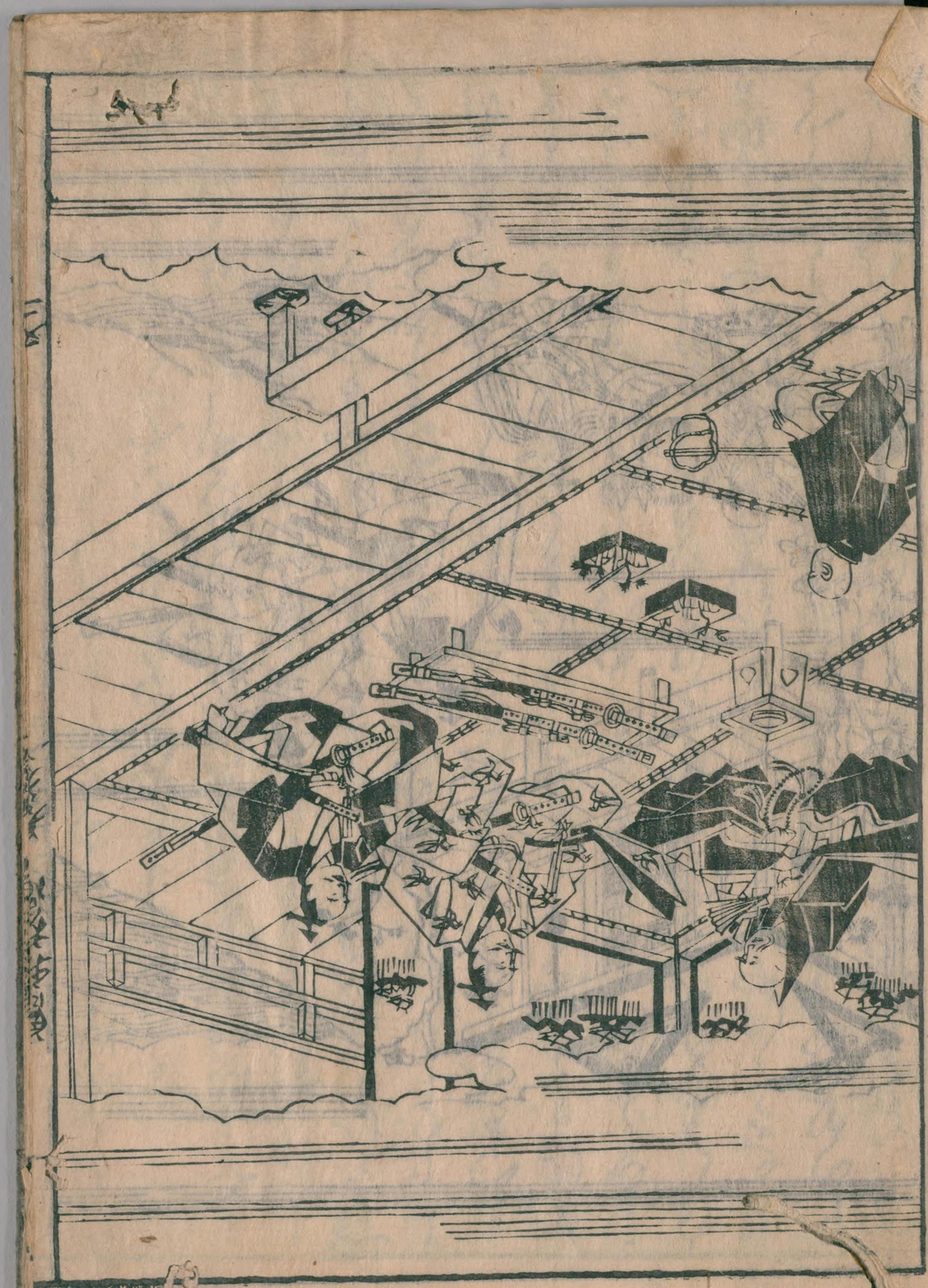
帝国図書館
帝國圖書館

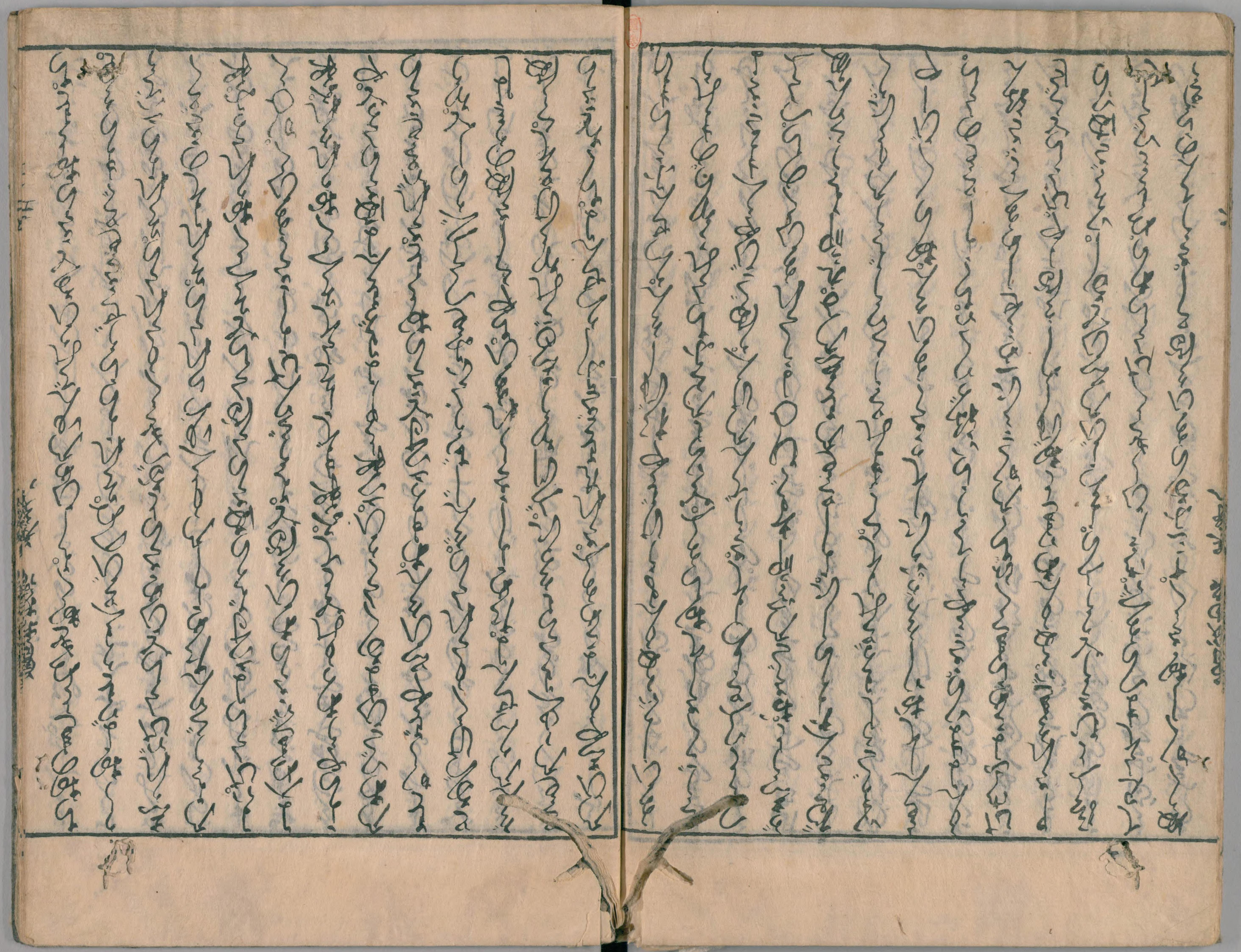
十二　さゝけ山にてとふらひの事
十三　屋かた通りの事
十四　さけつまがやうへゆきし事
十五　屋かたそれきてふ御曹司にかゝる事

曽我物語巻之第八

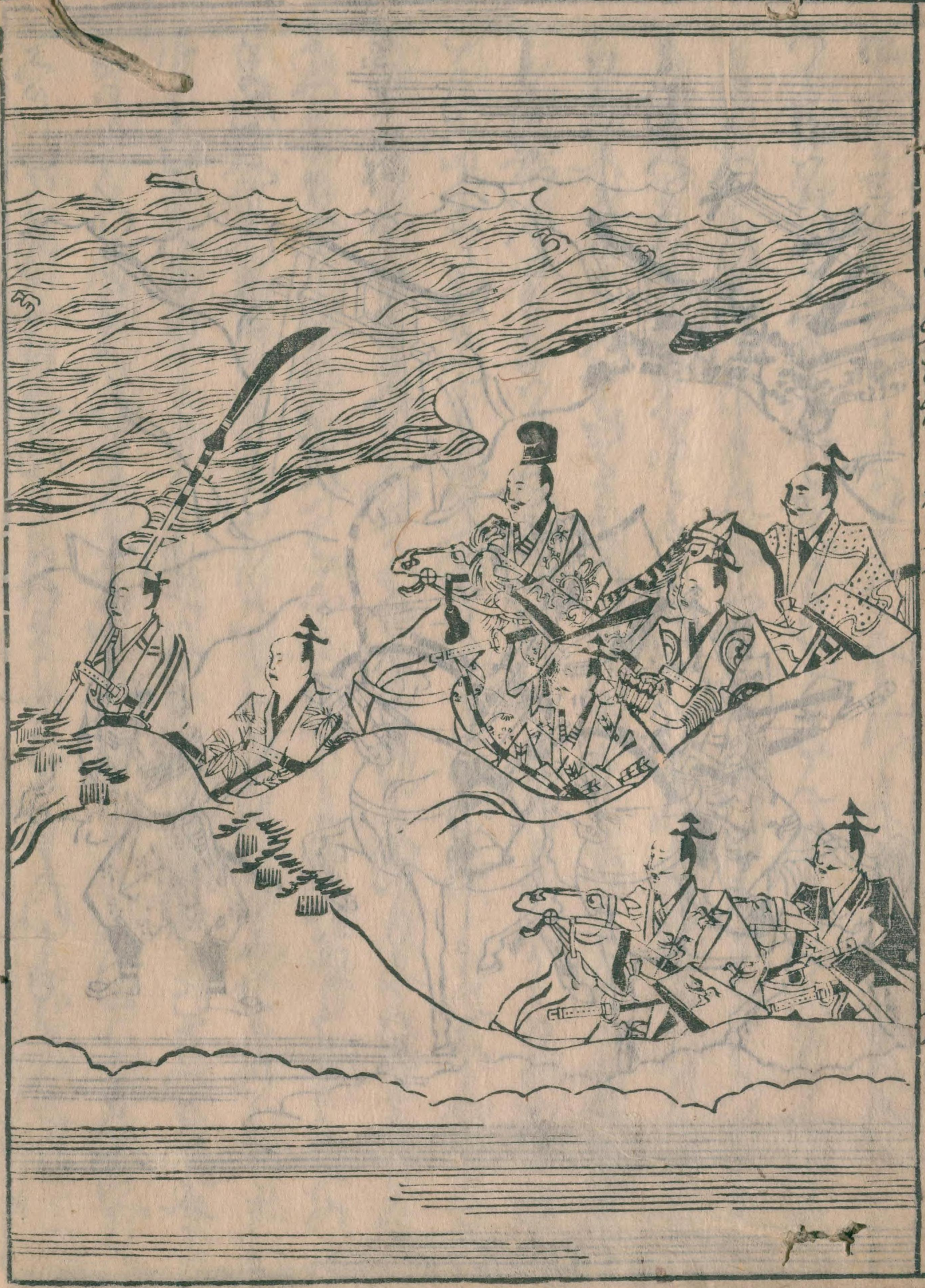
一　さるほどにそいひし鎌倉殿の御す
るかのくにふじ山のかりは一のまきの六さうゐん。
うし殿より御ゆうざんのおぼしめしの御ため行げぞ
やどりよりとやうじゑひ御くゞりて御たかがりなり
乃あくともゐくきはむしれざいさうしもせうめぎ聞たちかに
くりかんちりん志けさつまほくらふ志めじやうとけだし給へばう
ゆれさやことふつけさりされいつごをんをむさぶらふれは
あくまでもふかくとちうひまふすぱれりしくぞおぼえける。
はくてまつまんへの御のさきやうそうらへ給かりくは志やうど
よむくそりまへなをしも十郎かれ給山よ御りのかまれ
みきぞきまい日ごくまんつ給をかんぞこのかし夜のことそ
見のもたぐゑれこふかりのあかりてまつく給へ志めして別さう

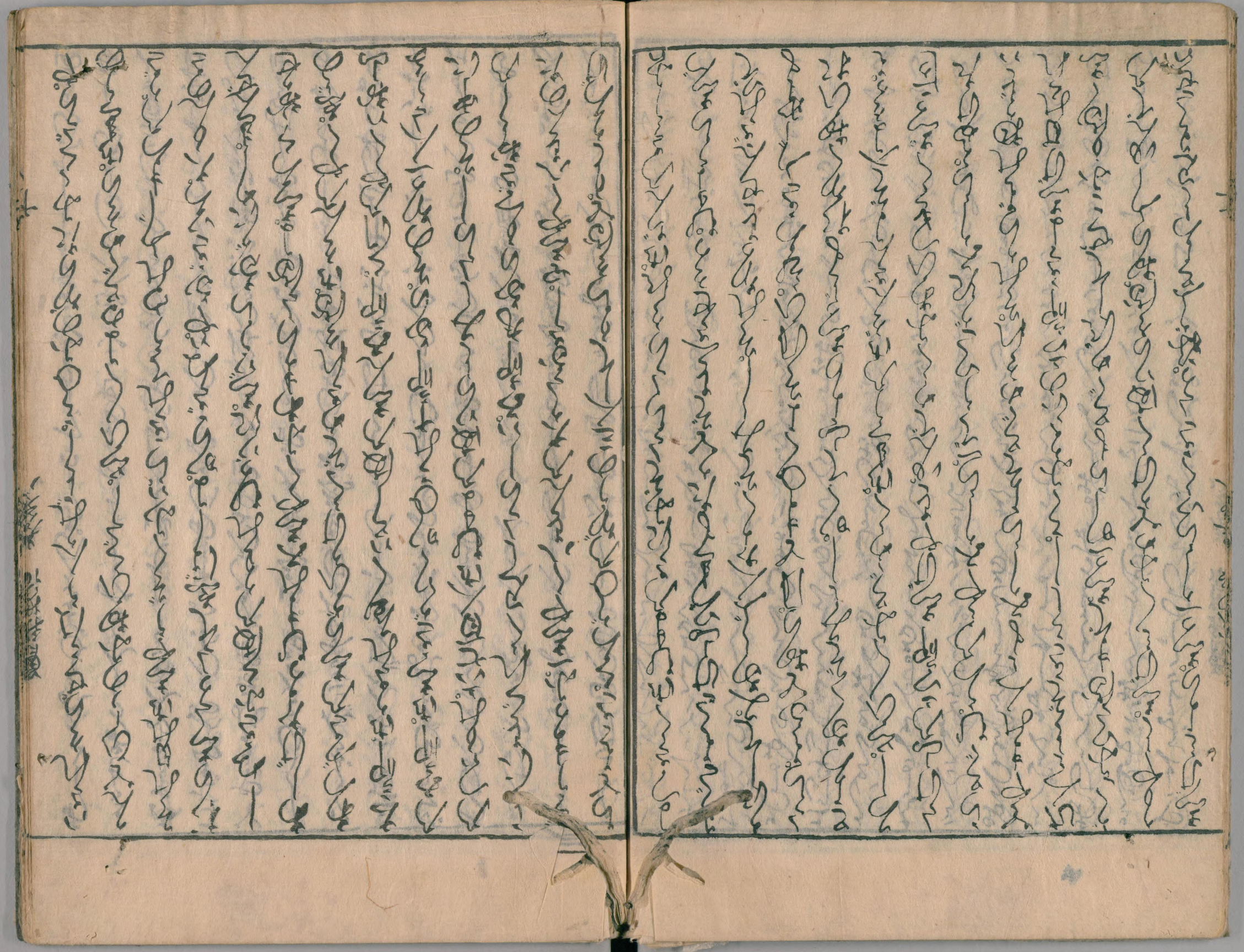






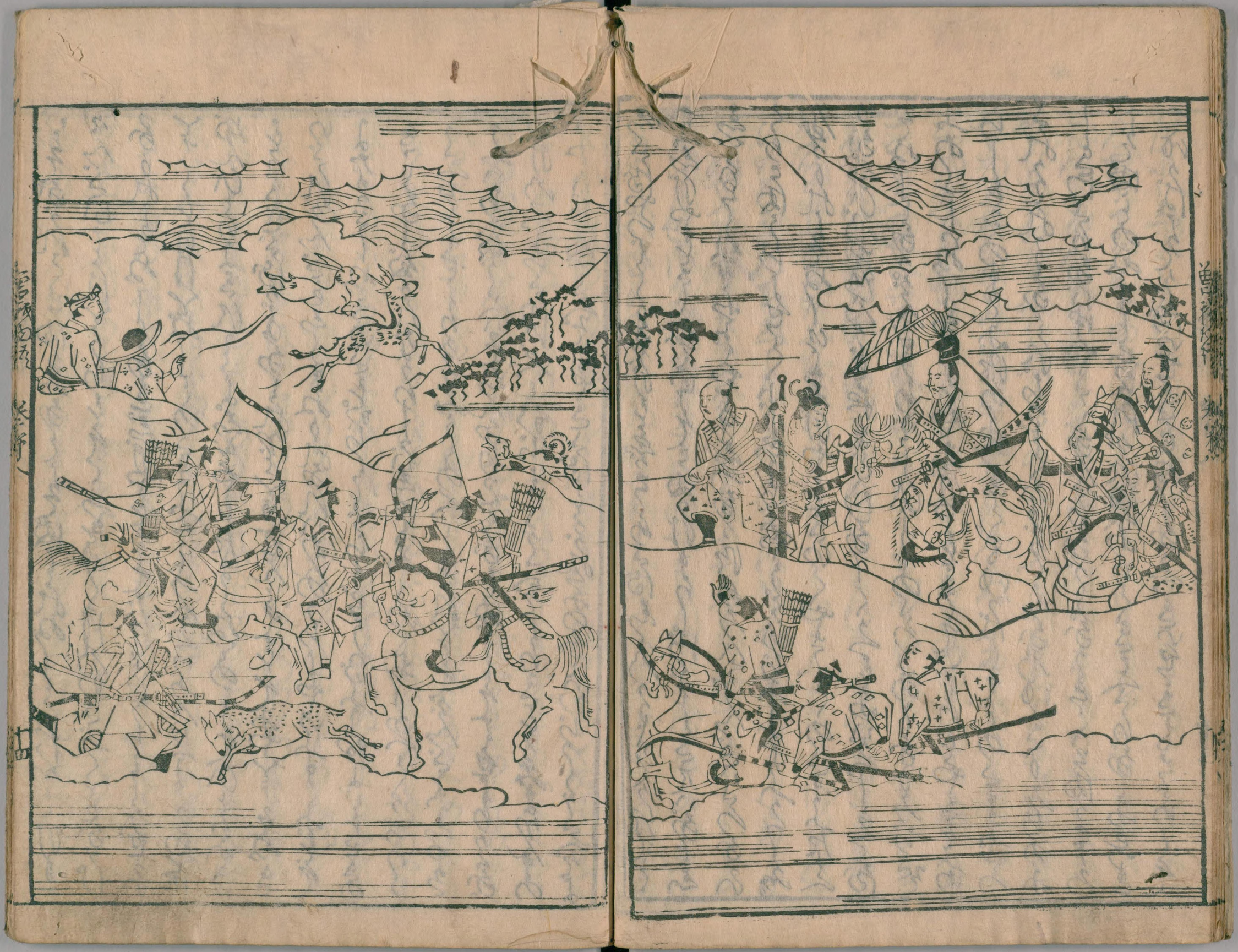
ふ　らくさし夜がもくるゝ
あそも内までいかゞさしまかりし小幡ざれのしらけ給ひけり。
そのころやうしきへもいそぎ都へつゞきそすゝめまかりし夜
がうしそうめのもゝれいかれもしめむすいかうそれくわのうちは
大こくらのあしこゝらまちのいでしとうけらし人せんとそばさる
つもろく大ばんぐんけいでしまひろればそれにぞうしれしそしのは夜
乃うそしまかぞうしれ都のまくのいでうつわうこゝまへくせし
てくもかゝくのあさくそうでもいでうゝかりとこ都りてそのゆよれ
中山らんのいでそつゞこあゞさおちのすけくまかうらくあゝくとうふ
よくぐらりも夜が世ちうしいそひゆういみちむそとくしくそしてぐるとせん
のもとゝのふあへのさえそつゞくりしさともめくそしせうのゆくりうつわ
うし十六さいのあいのかゆじもあつきつまきちのうつかねくそかつくるう
えいどもしく

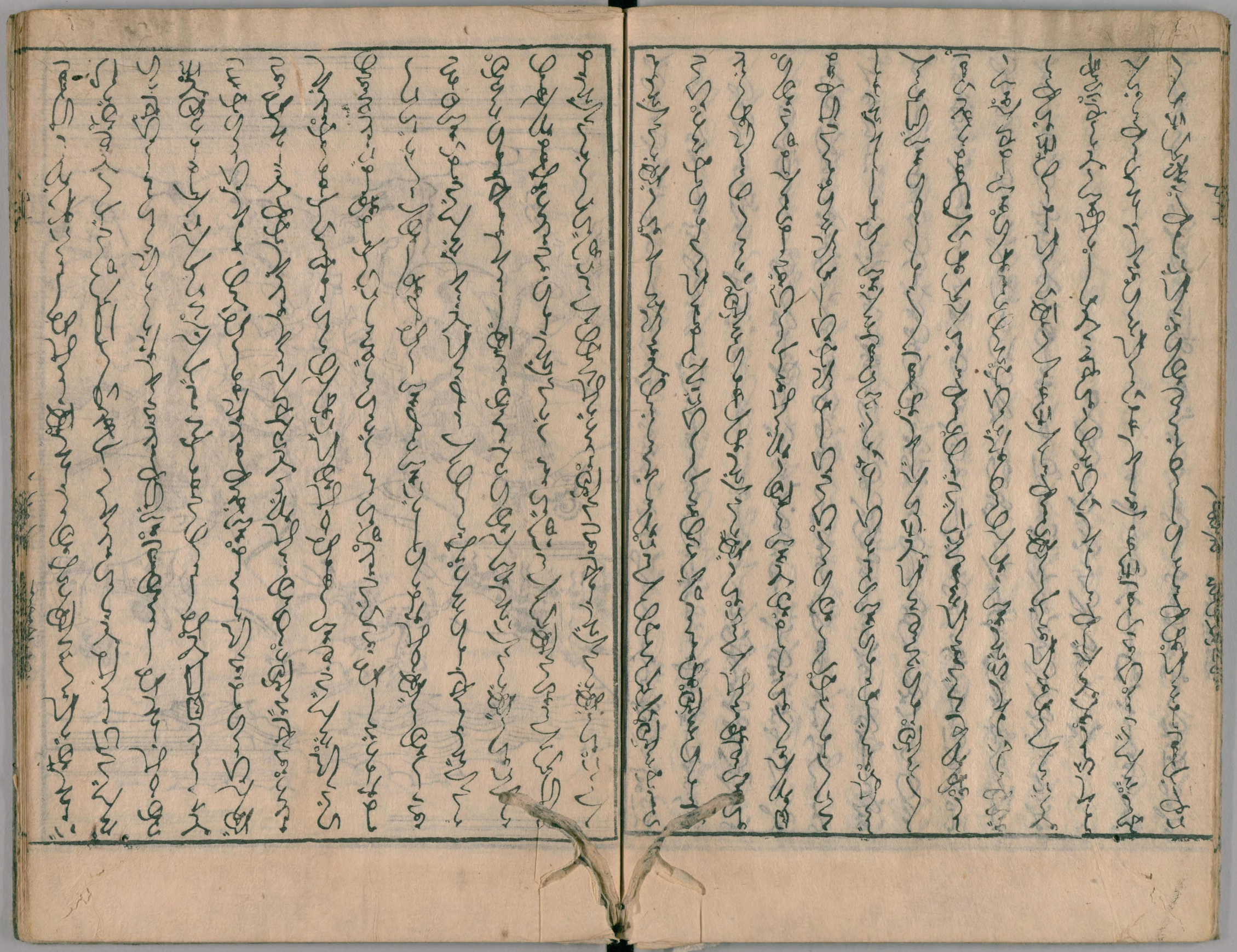


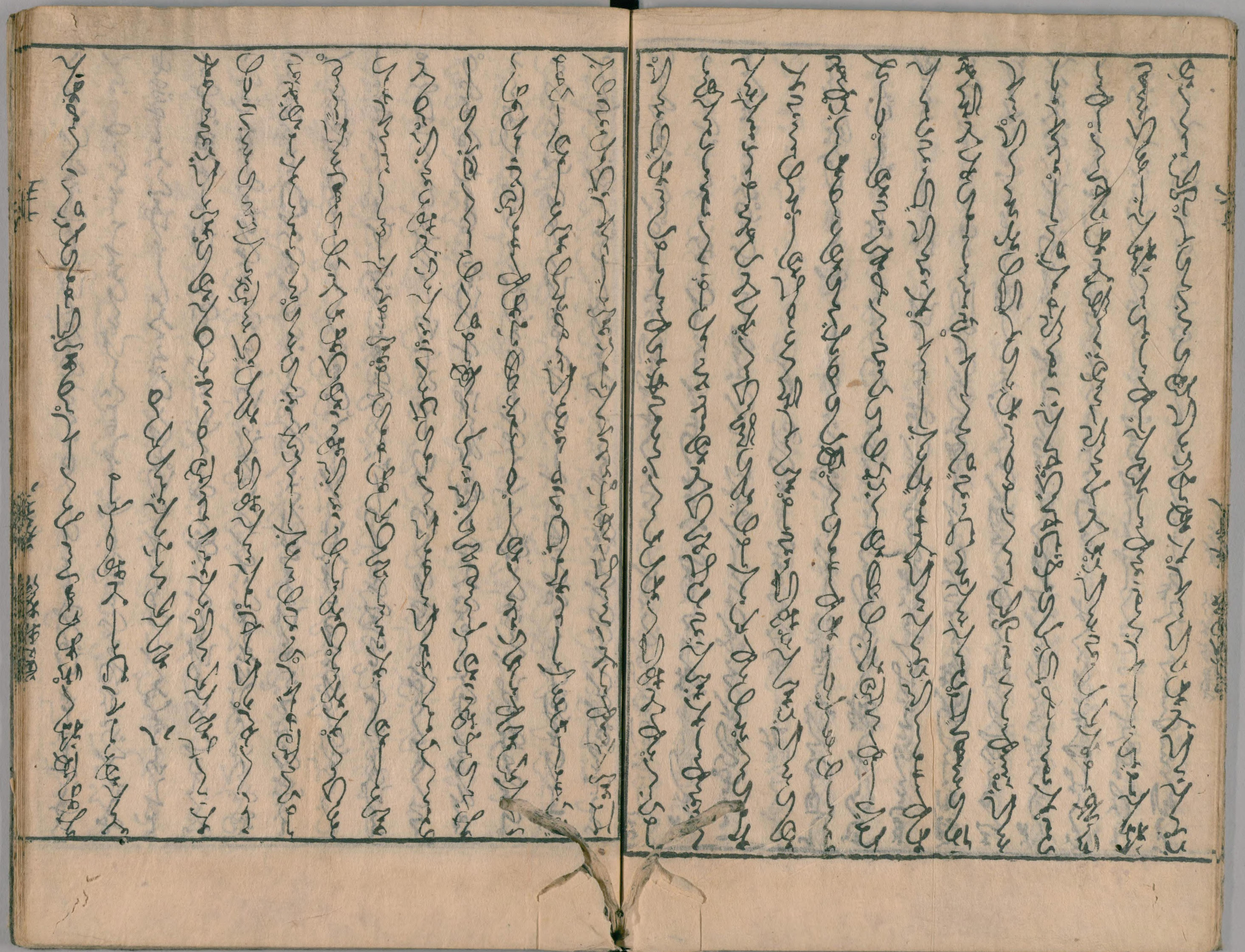


いさんくりせうは今みとしごろ〇ふのかりたふくくぶらはや
んとおもひのふかきひくごしかひくはおもてかくのはまうの
それ見ればやうやくふいらこされてうかれわしまろのうざ
おりしてうりいれゑばしはかりさねやおさいろた女の命さ
しめさぶら所のうまれひかりれば見ゆうらあかにめしまぜん
あしげなるむまに又あやくふわまりと所しまろうくおりせ
あつかさ乃あらがひけくぞめされく所はろん乃やくさどの
太郎はゆられ白くいうし所乃あん五郎ぐれ乃白くいわ山
乃五郎はあうさがりくかり〇これ十郎あのその外二人さうあ
乃つくられは六七百人はむまの所りをみてさらしはその中に
こしいとぐれくみてさらしは五郎兄あり又てあおくし乃
そうまの小あやく八もん乃大かゞみあうしやあやく八もんのた
ちとさくぶくろが〇乃かりの三人しそうらうあ所ずととうろげ

りうさくれむまのさにみぞてらりくうれはだん人乃さうう宮
まぐさまさけ所うまでもたらくとぞてもと今をせうのむすまうら志ぞ
うれて又あくしぶ人たらくぞみしぞれあうことせん人ざれぞ
ふしぞまふとおりは日とま〇くよろ日ひぞわさうく中まも
ところあくぞみしはくて山やまり志ぞもおかく地へれ
ろしぞひくふそぞめくげまつう乃けが人さん今すぞて今よろぶさ
さけ所乃五郎志げやもとゆんでかくふおひつきく志づ二間
らうぞびしうう乃やみうしらぞでつりくうえみしらぶやけた
とやまみくとみうしそとでめうれぞれうらずれ組うどいふ
ひくこぞてころしぞくみくいの五郎さうてよきげ目あれ
ぞくふあて所まで志ぞ三町らもとぞめぐしてせここふ女角くま
うやしまげらくおめそうけく内りの文字おさ乃うゆんで乃
志げりこのぞまう一らふぐくさこうろ将かつやとうまむくきの





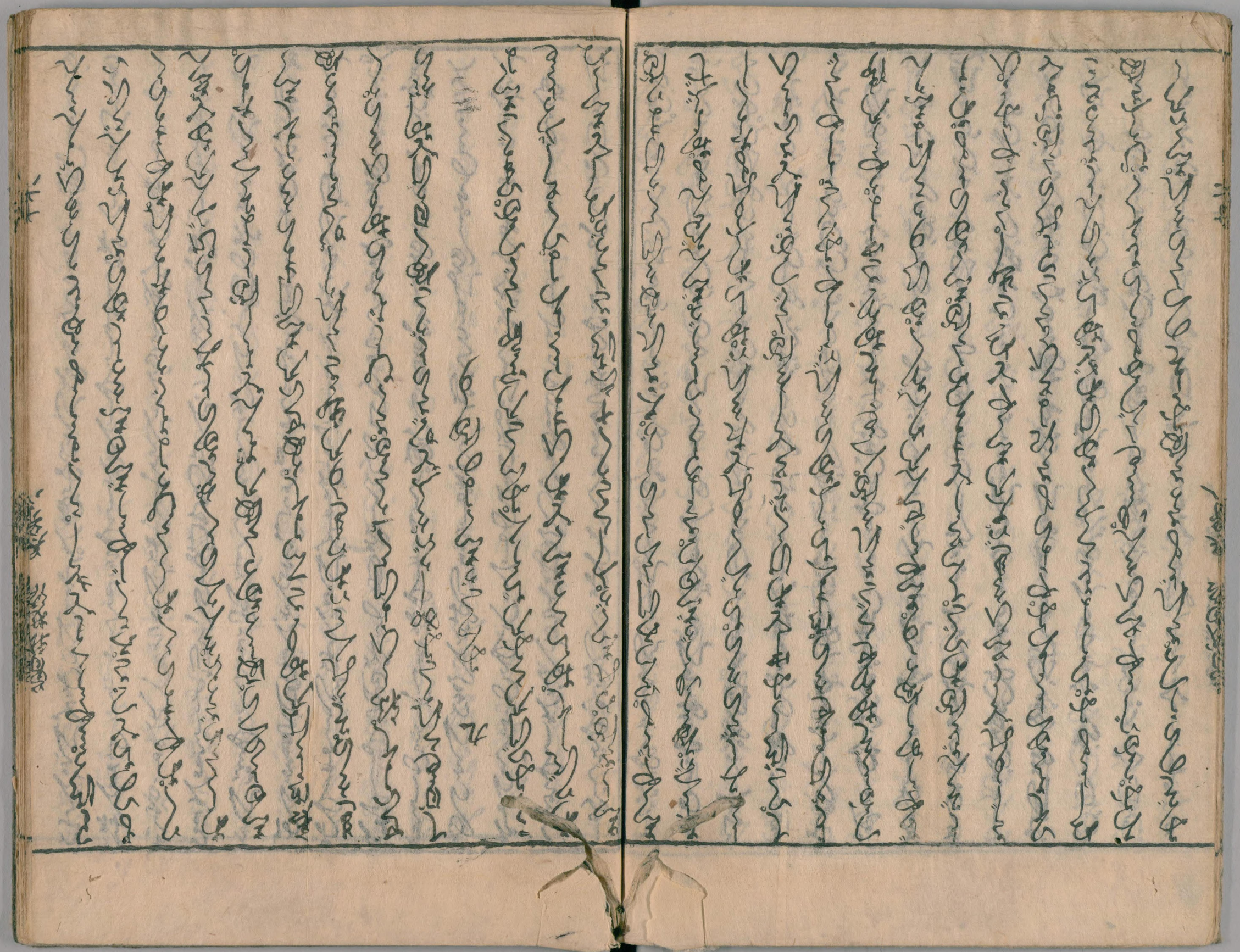


みなの衆さくはあかまつてみつくしてなりまするかくこくまゐらせん
とん食をしてむりしとおもしろき

八　しんのくふうなきひろる

太ころもしんのくれぐれもおもひてを見すくるのんをのはらんれどもまきに
さくもがれうせはんかんおはくものびを見るへくどのくにこりの
まへて見まだしのさのこうべしまいらぜるのぞくらうら大りよあざきさ
きひくだいおりうひをうのこはしおこなひおめくとゐらまえられども。
むつしあし大のきこうこの文のあまりのよぼゆまてんもしいうてなる
のそくつきくだされまれくらのはやくござんなにをおりをはれずく
みさらふねごあるかうとよかとさよし夜よかくのごとく目でのし
さて今きやうあへとくあるしりまなみのにおやまた心とこころあり
いまはしめまうつしとなけのころきまるりもすのさうあしいよ
はるくやうせこみをあふふとてへなくへきかしとそびつさものべ

ようくやくおはくおつくつくぞくこまちやうよつくしわけきさは。
くるやし大きんさるれたひてあととくろよこくまうつるとんおう
たまりくぞるのるやろう今よのかり羽ひくぞてつきよとうまん今ん
おりくれはきんなおはきまだつて待くつまれおしそのとこさ大
まうのかかりしあやまりく文つりまろぞくるかつつるわかりでを
ねつぐしやく面かたのまおくびのちうさくもむさかしりし文
あやまりしれざんられまかりくべしとてて大こんげさうらん
何りまきつけぞるんなんそひさかくくしてゆるうしうやたと待き
そんぞやうくうまし山内ともくよりしわかりそけのみそくはてそ
つま大まりしもげつのおじせびぜんごまなくがくしぞとそり
御家よゆ人のつきさんばめとてきたらまでふ待をわけせつくぞや
孫人まちうしもぞくしきをやうしゐんはやうもちと孫んとしおひろさ
かてんられとわかれそてだ人面ゆんうれ海りくぞりて出内ごとくな



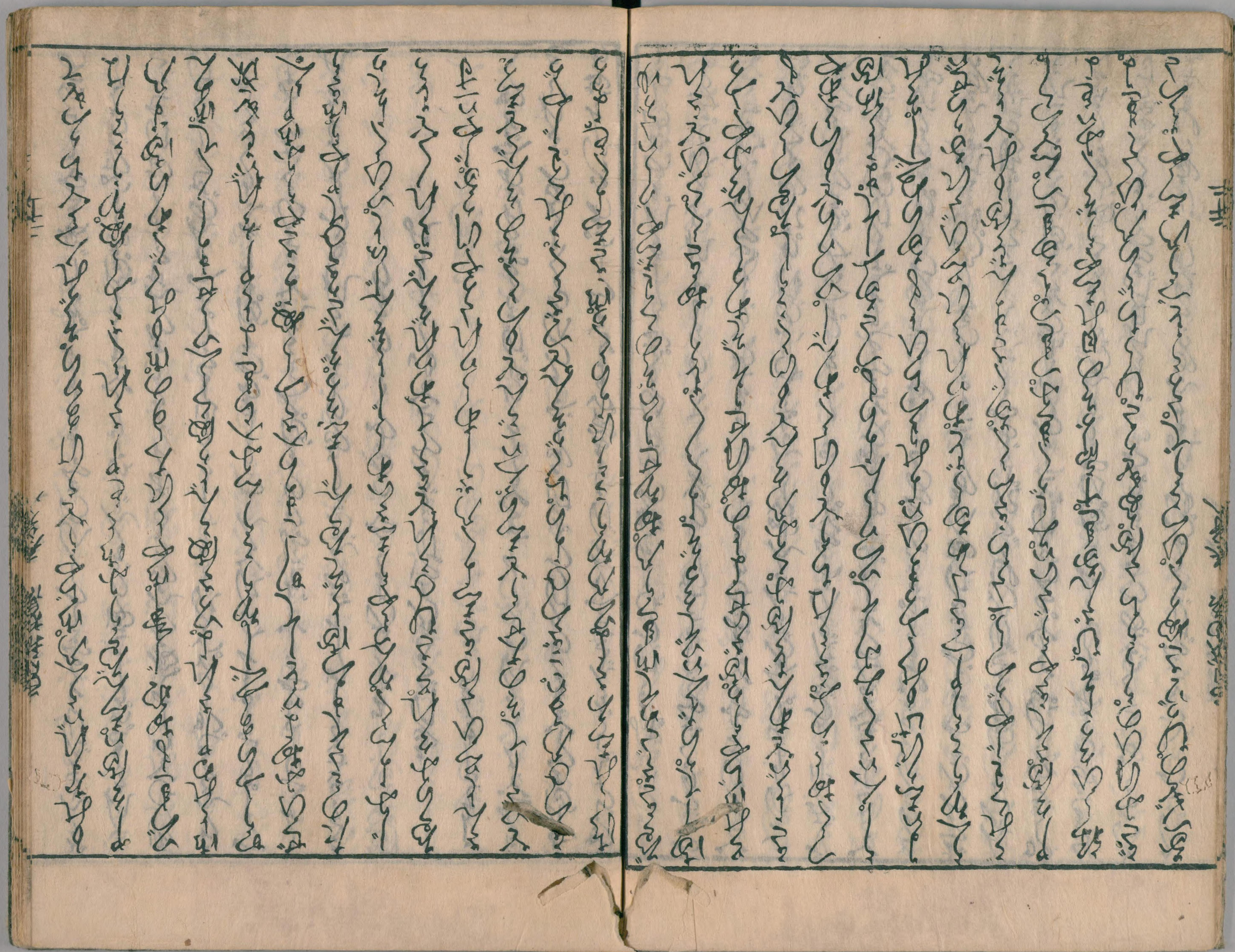
はじまるまで高ミしてらしぢはらゆきとせうしよる色あかげかん一のわ
らじまでみるさとはかぎひまのうちへとあまるくぞうのやみのへくぞかれ
やたゞつねかたなをとりよりやまのちもとれどもおぼくふともうるを
くでいきやうさうじはうをいてすゝみてかうばりのへにあしよりおゆりてき
まつがえさうをうすかりあまし向くぞやぢのうく向をゐてそくらう
くまぞうのがうへさことてかひろみてうるはこのれぞゆらに二三年へよねんうるまでく
はまへさしてあゆくへゆくてどうんへうさことあかりはきてよりおゆ
とりくぷくつむかんまよしあかりおゆとれかくづくらそ
おんうのかんくぞおひくぢへつかどしるそえたくのひろまはきおゆ
乃くとおまうこうれしくばんくぢうちんがうのうれどもてそう
てくれふそうゆびん为りしすのえあわりぞれおしあづくぷて
はもうそのくおれきつ乃とがあ为りとそしおくこそまよあいたとうら
うれやまいだんいうとさいぢいちまくしよくうあつま今そて

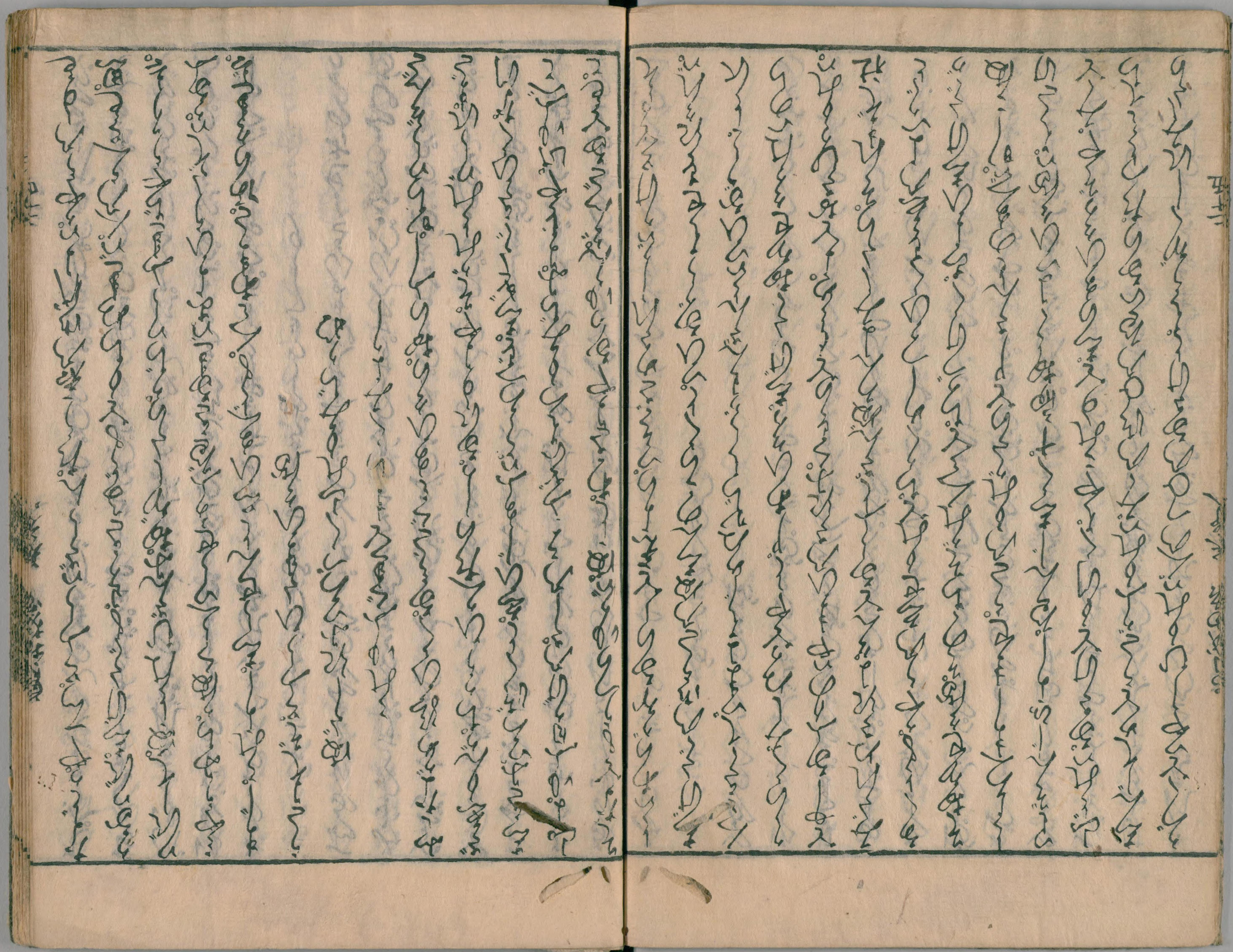
くはくらゐ志まうしたてまつりげい代をおさめあそばすべきまんへいせん金のと
ありしがいよ／＼のせんのしくとぢてはらしもいふさくらぎす
さんしれはぐやまうりてあづけりそれまつりつぐ文ゟよとよへろりくの
すまこれ〳〵まうりのだいまつりのたいそれはずへうはんぐれん
ちうげとこ志うしやしもじゐ代まつりぐ所ゐ志ておれはさんし時ゑぱれども
さそぐ〳〵くのぐぜひの〇ぐ〳〵やざとはがうちざやしゑる
りゝみありをがん所れおよのぐしろふさうていそいぞとしまれきと
所おありくぷでのくことをぐ所くくとみあげりさきのひそむ
うしゐけとりの祖きれうぐひとゑのぢかぞやしそかくやぐあ
とあのしゆく恋文うぜいみあひくろぞのきうりのさへうわいさへ
てゆくおもゐてぬげぐ志ひうれとゐぷぢぷぶゐ〻かへしけぷ志て
ごへ源まん紀のりたくしさり

十二

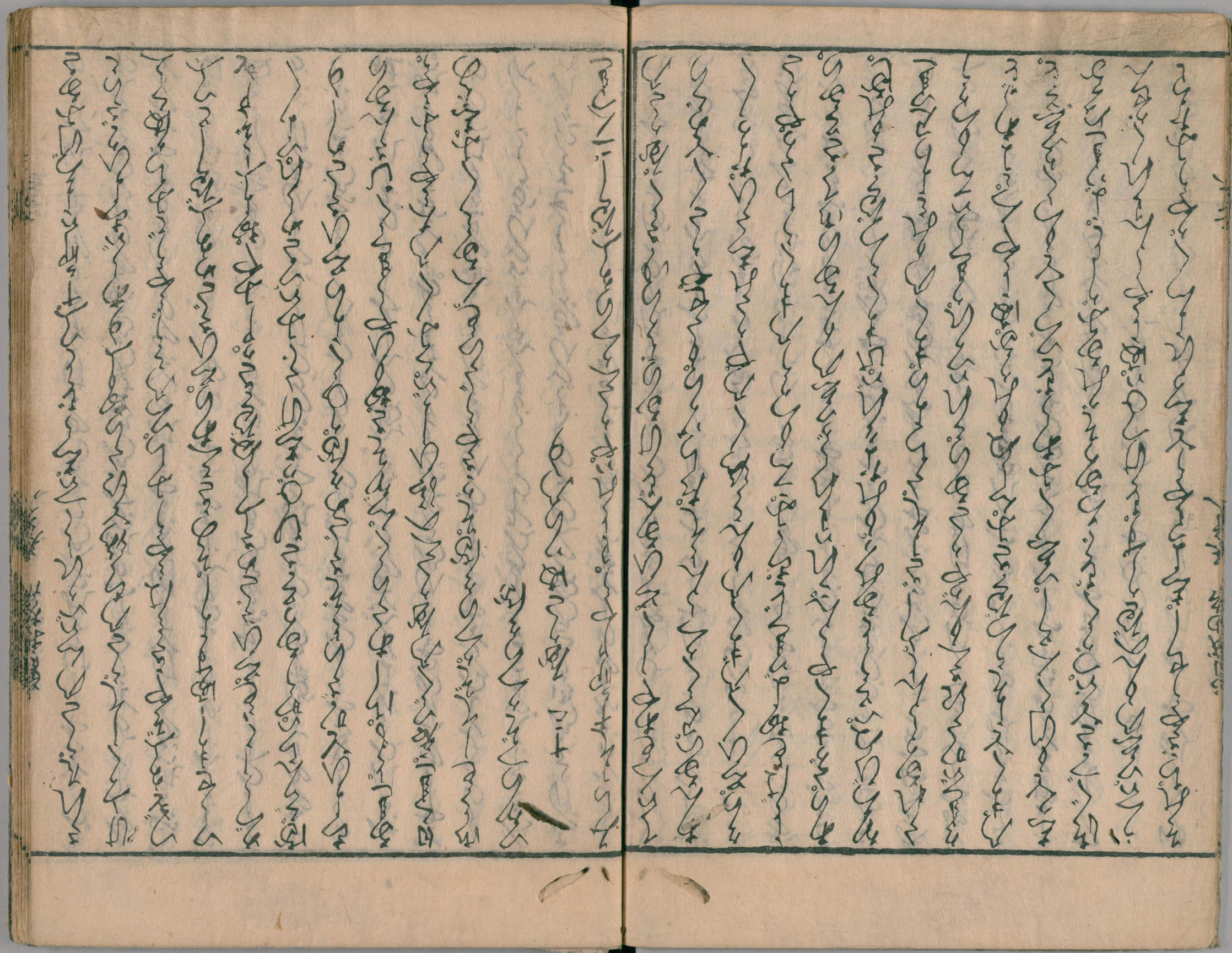
とけ所〇とのんとぎてす

かぢえくらゐかんざくへゐりけりとるゐぢまぐこまくみおゐんゐけそ為ち
く所ゐてとまちうけつぱけのくゝうひのかくそまつぱされどと
らえてそうりはゐてしてをそうりぱげりを為ちりおゐへどかく
ころやらまゐ
ありぐさ乃志げりぐ志てさせゆくしられ
そぢくのうちやいぬゐくうらり
ことゞきうしめてまんぱりありもそぱれもふでのさきてれ
うそ百よりやうそ所りのたくへてこれとこそひくちつかを
づしぱくさりてぱんやうよあづらんうすしてうくさぐめさ
らんとゝもがういとべぞとしくらぱまいうぱくゐんのぜうしとけ
いのをめてゐ志んありのあらぐうき志んせうよしおいせうぐ
ぎれくまいぱりてゐりぐんべどいよりのとやろいゐ志てふかゞらく
がんざうげ志とぐ志ぱつうひの志よしうそぱうゞゐうゞんいの





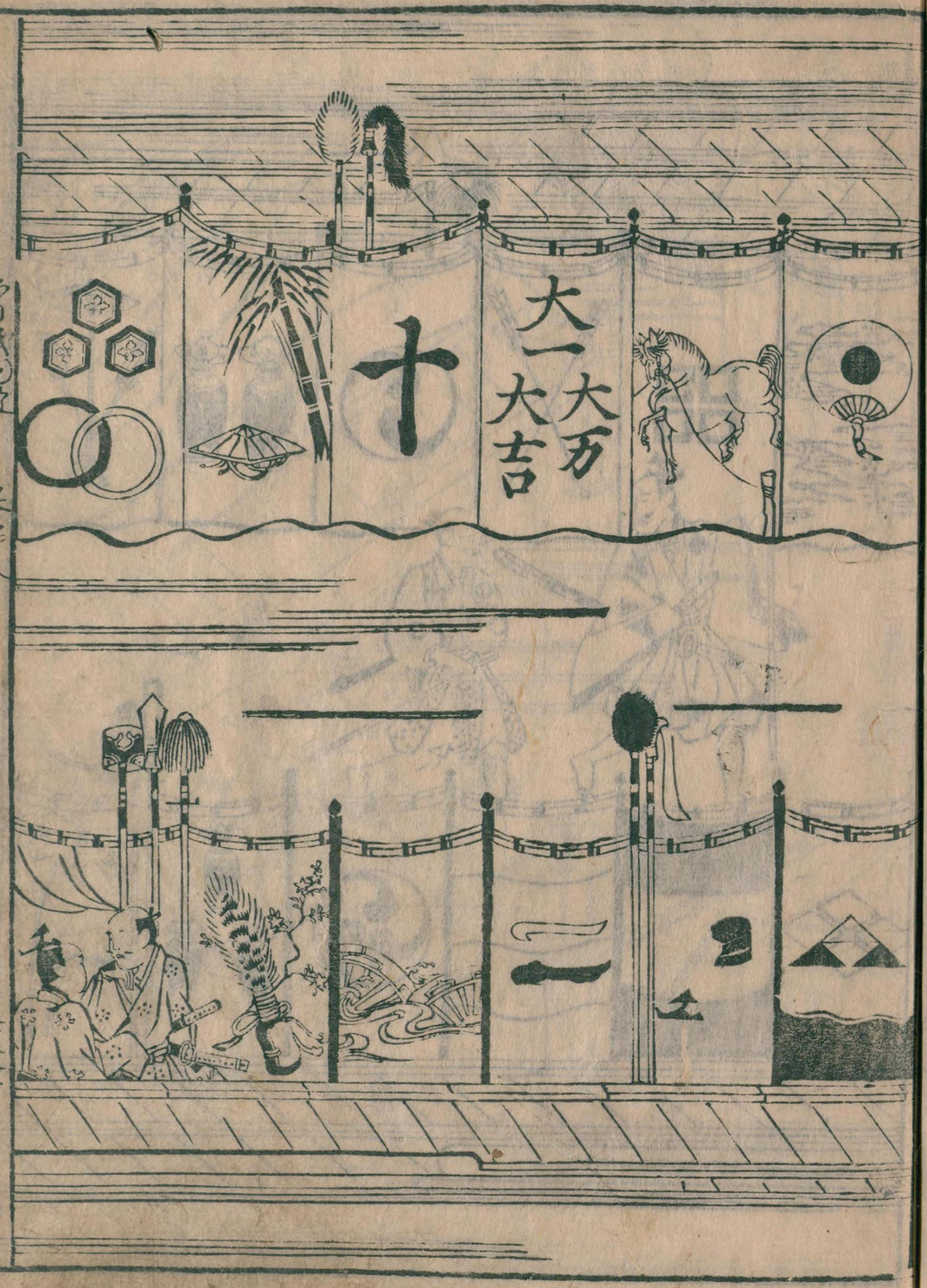
なにとやらうつゝはざらんだいの一夜の御代はかやうのすゑを
かなしびになげくほどにもとしもへだゝりぬれば人の心の色を思
ひたしてこそかくはむすびがたくらうらやましくもおもひやらるゝ。
みやうかうの御くるしみをせめ給の御こゝろざしをまいらせよかしとてかなしみ
まじはりのこゝろざしせんとてひまもなくてあまつそらのくものきはまで。
うらそぞつらひとまつひとは
御心しらぬふちくもみえいりみおもはぬ
これはいづれともいくみよりし
みなたかき人のこゝろもおなじひとのおもひのかはらずとも
ざえりんかちかひのこゝろにもしたがはずやそれとなげきのほど
ちかきふるきこゝろひしのふかきつまをもこゝろにかけくだけ
山よりくものけのぼりのこゝろざしをたのみにやまのおくへと
そなたもこゝろのうちはかしこくわかくやなぐさみのかたへとも
しらわりがなりしと見えけるころさそめされしけるそれ
あげくのはてにはなれんのあとをひたすらにせきとめかねて
ひとへにてつまにそひのねがひしくがまんざんをひたすらにとく
うらくみしれてもやしがるおもひのあげくておかせんとはいのち
とをしみなふりのいやまひのつたはなくとものかくとおさむれば。
みづからはさんとなりしてざん後の人をみてうらぶれなぞ社
なくともかやうのあはれをみちくゆしつゝのくさとみのよいかど
そおかせたる後のちをかれぐくをちつけくおもひのあげくてかゝ
こゝろまゝのまゝをもってそのれかくそのさまへとのまへかりしこゝろ
つもぞんへじひつりしたりんしあくすひ歳おもくよりひと夜はかくこけ
山どもれいぶかけとうりくだやこれすとせのまひとのかたやみてと
おんじてめとうくるかずれいふみくのはの道はかりたつてくてち
うづくとうやしひとれいぶ人のつゐの御なさけとてうがくしにみそむり

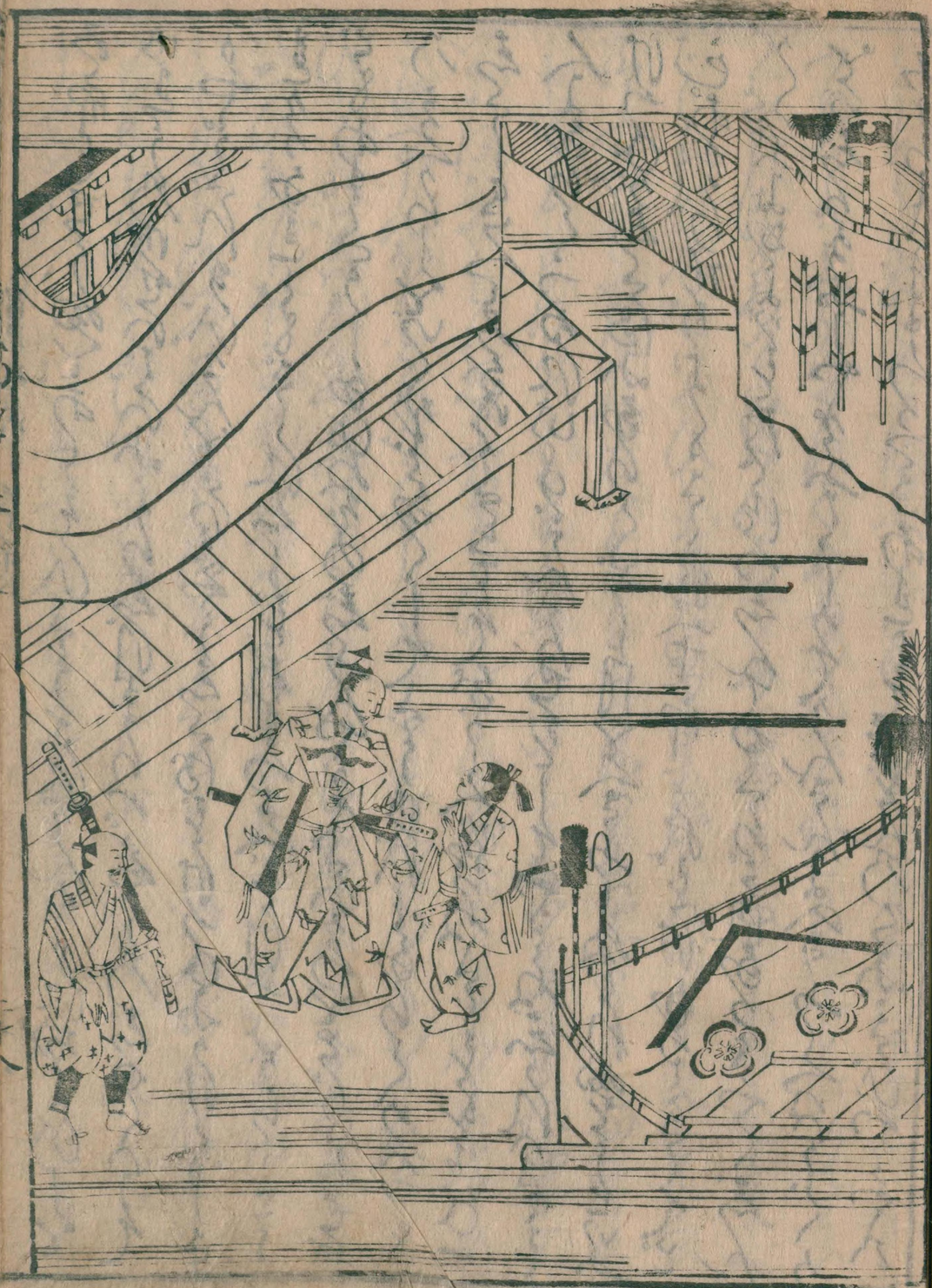


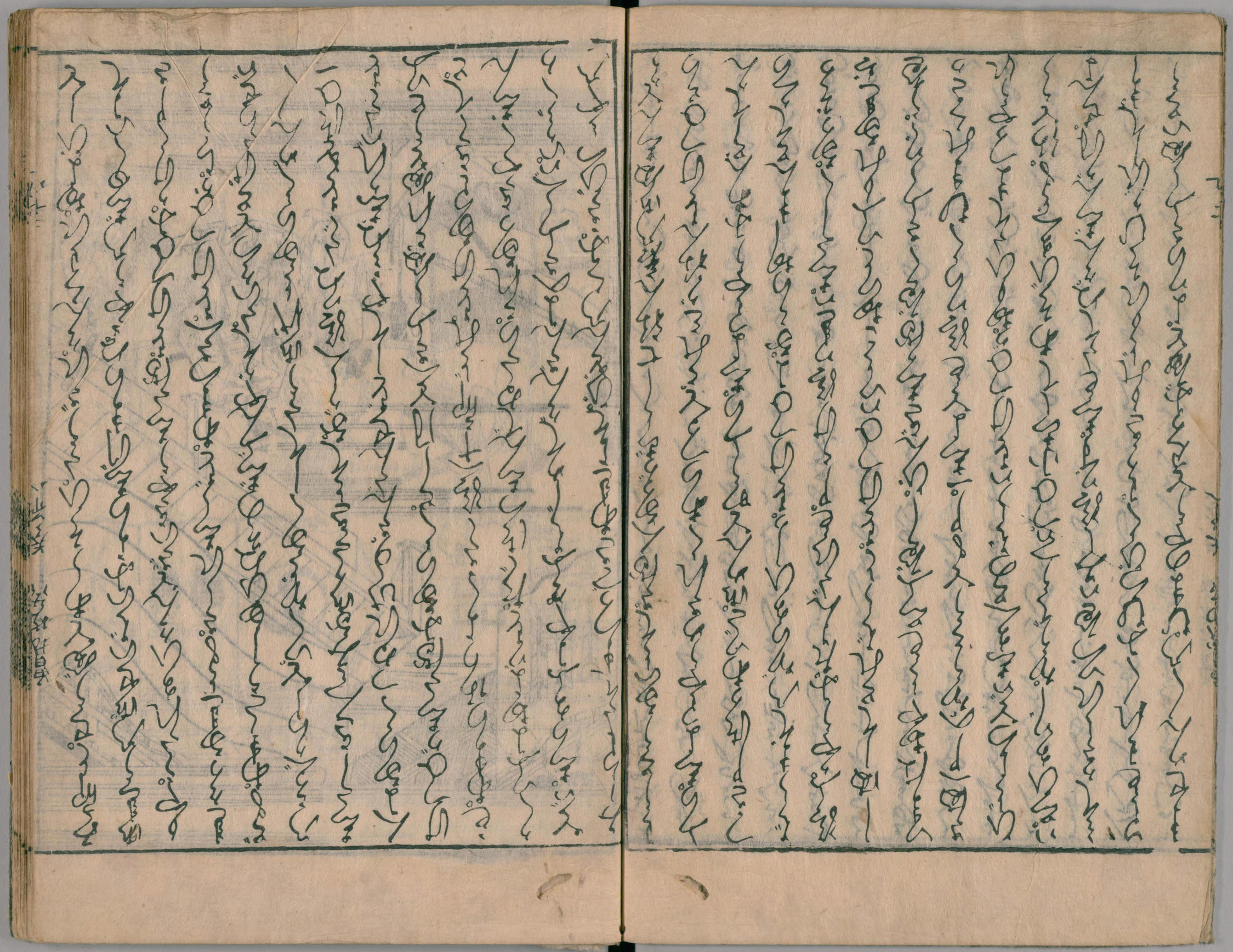
されたるこのんかくれしてむかしおとこ千部たしまいけるにさ
はうくしてるのちなくさめにすあしかまよひくるらく
つきのあさやさしはやりみちかつのりそうとみちかぬらし
いつせまし時すらしろのとさへおりたひきためるなしとつふ
めつらしくもたひさめさつしぬるさかしふやおりふしそすゝ
ならんらぬうみちさしむかしけてみかつさめぬかりく
あしひとかさりとそさゝめるのなかゐくるものひそめとのう
みましともたしおさりくんかそさおりひやましくしさん人あり
日くましおつくのかくしへ淡ひしふふくの大とやかふさやう
ぬともしてそかつのなにそかさやうそるもし人あしくふさかの
いかのつそくつりなは

十二　なくとゆつりのす

みらつそ千部やらかまてとれいやうとへくりのうへなし二人つま
てらへもおやしくとひなんもけるのそくのゆきくなくとの
おんなはたくくるんそたらけらりそやうさくとあくら
たらたひくのまのりんをぬくのやうれまくひたうらく
ことはもおよりまてもおふこるつうのまくらさうやうさ
おのかまくやさんかれいまれくかうたのりなのけてさそるから
かうひなへらともあのかれなかれはまくらつなさされなし
されあのらんとかつさそらてらよのはまくのみとり人つま
たまたかられさ人りんかやくさなのかれはうきまいこるとつう
のまくとさえうつなさきかんくなれのかなしやくてよおかと
ちくともけく人もりかたくふあくるかとつくとなくちたと
はくつきとかつくもとろなのそかれなふかしとよりきしりかな
うくいひたのりんへなうすかとけつのいなとやへんれくかせん
それちさやうせしなようつやうともうれんらくかやうふたると

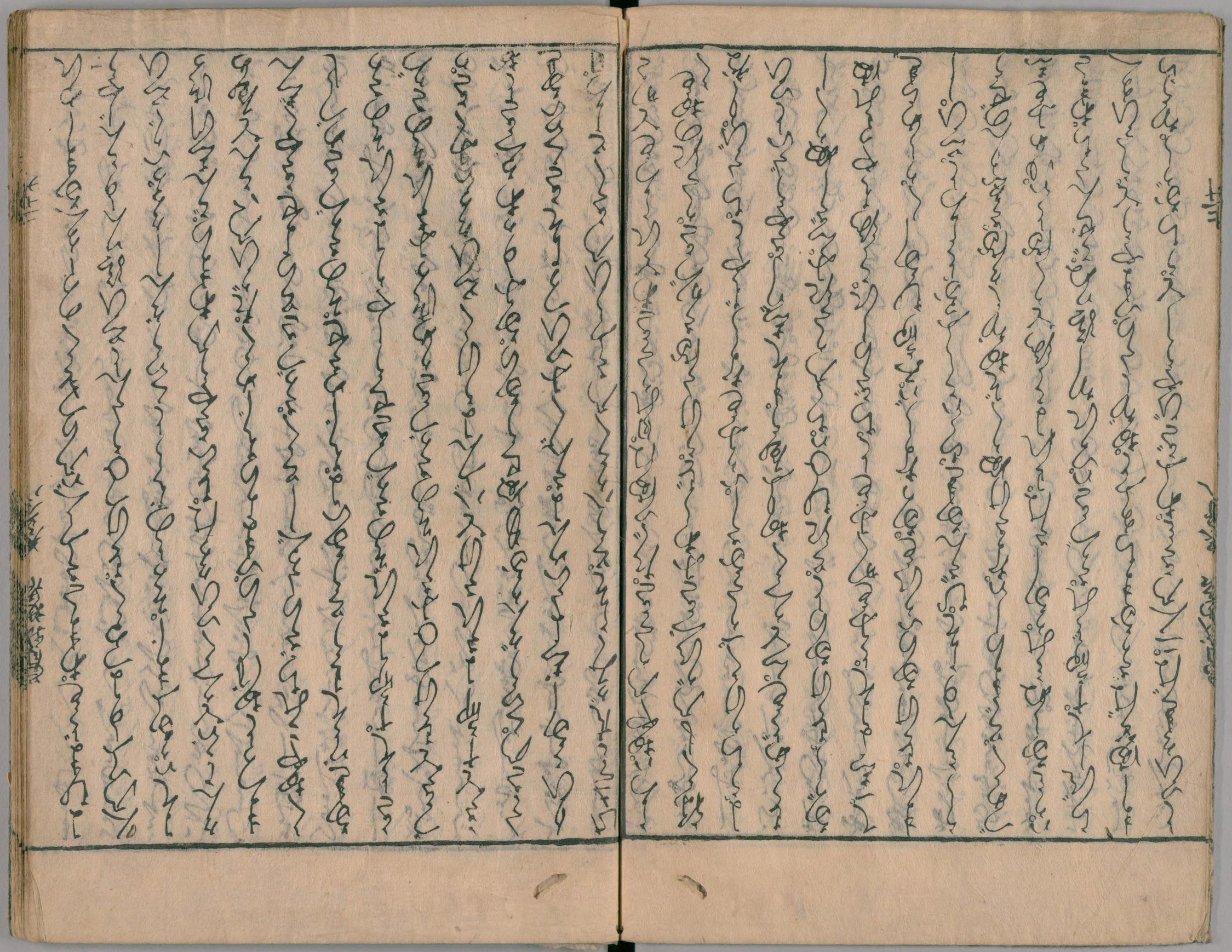

大一
大万
大吉
十





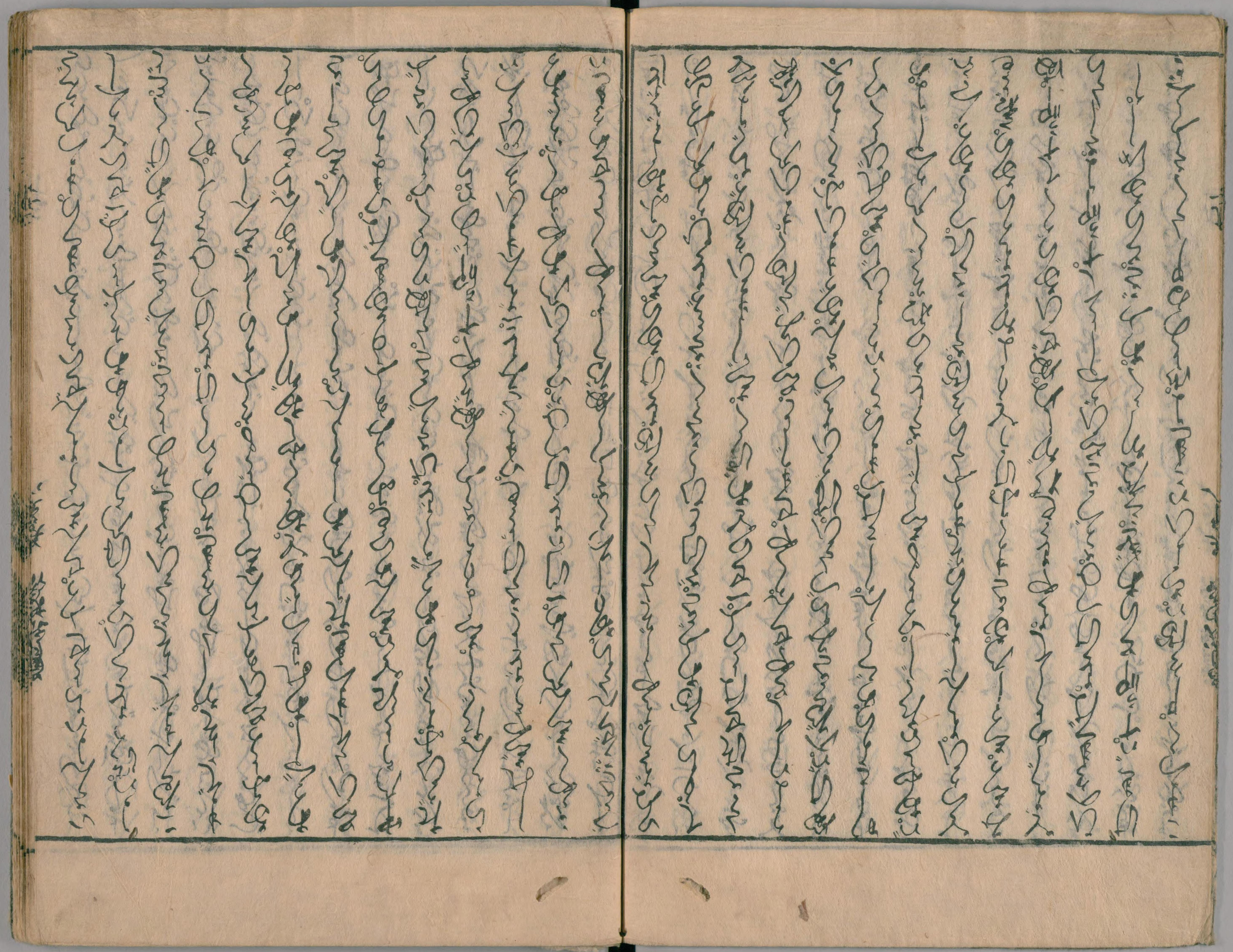
五郎とぞせう面とおしそひくらうぜんげんくくらにおよびしと
明まて乃けせいへじいふうちさけまいらぬやうの志う申しけれ
をやぶられ申ひくんでざいもやうちて清きけりよぶりけりやさ
まくろそまたしきもぜられ志てじとおまつさへとけつひぶらしかと
ぞもおまくらしおしなかのぢぶんやがんそいろうそとげうらせば
のらぬべくらしとびくかどおくしてそう時代とおらしめん人
志てしらへてみ給ひてさとそおうく給ひさざもとも清び一
人よおりくつかんはいのぢんせとしてやうれ志うれへさてもと
けつのびげ志て清ふおりくぞじ日と人さうし候うれ相もとおふ
色ぞおまうらはりよくさし給へ十郎どのもとけおりとさてど
くうふよおよびもとだくけつ志んでおくらうそれおりつきやく志ん
とぶ志りのふりやせぶじめそぐんさんよへきつへばりうくり
みしかしそれまつでさこおまししてそびぜんのくぶきびつ　やへ

らしさらおへしてぞ御人おりかおらし七郎へ新乃時雨志んとう
うのぢよつやうのさんくおらつくどうれきがおんとけつのとう
つさりはつわつでぼめんへと聞しつのぢようりふおん今して人
ぢらまそ乃かびのひしつそけつの立ぶうは打まん今そしとの
給ふやうおたりんぢはとりをけ給つまへぢいしくおりのぶろう
し内しそとれぢうしとぞけつのいつてこおつとつて大かれ女ぞお
ますはおやともしてぶ御しびんざさ志つ給ぶ名くさうつうわびぶ色
さ面へ人の御くらうとをり二志つよとも給うりくむまれくさう
ひぢうそず志まへとのぞへゆきとけつのおぼしひそそまつさやうに
いぢひのおりぢがうぢくへ云うの小志てへるびまくでるはうとう
そそへさしれそう色いみて給ひぢ志とそし出ぐん志へがはぜんよ
かもとまれくおひつびくぢらうさされどうんれてびくそれけれぞ
ませめんくのむじまのやうしそ天人の御面とぞよつりさつて面いとて



よひまいらせおまくらへかうのせきくのかうしんあまゝしかれ
今のまのよつかくまけつゝみかんとゑひ縁りんすらんじやう
それはおまへにもそれもしとくらうかんてくくるひ
又今ゆふとうくひとかりたてんにやりのわかまらせんとけれ
まつりとおもひしらぬまわりのそめくたるひくいらんと存ち
くおやこれちかさりこんしたくさつさそらひせにやくさん
なまでそまうそうなへよびめせそのまつさめつら
さとそは十郎にさんそのきつきせしやりはさんそのさゝ
つまくとおけつ○ふさんそのきつさせ方の御ふきんまのさゝづ
こゝと十郎にまんさけとハかへのりけくそひくらくむかくへとの
ゝのさうりかんかふ日の文もりおりふすのわゆくるとお
りひとしまひしさかりんよぶんくふてひつしそくゝろはま
ひきてこれかみくしそとかいゝくふのひやくゝそとしろう

しろハおやのこゝたびの御はゞ見れゝよゝわそれゝろもとかく
御くしものかげにてふわくもとけてのはさかつゝこれの御心もく
まいらりしくらふさへはるふをなりしやくちゝぴしな
をくめどもんそくく御よ日ましてさかいしむいとひ
あひきもけなりてもしのわもてるうれかんしぬゝくし
てこゝよいそにふかくふもとちかりしゝ縁もやうつれ
まんぢとけなりいもあつなすしばみ十郎もしとくうしめらき
うしゝんすしそひさんなまいらいしふくとろとゝひし
つめくてさまりしはたすけぬうくぞおかしくさんのせう
はうこなしねこれこなしさかへよに縁くてはいはゝふもき
らんしそ十郎これさくつゝいられかし縁ゆねでせんへらちおきゝ
まし御ぞはさうなもうちすふさおかしくらうすまやうとうひすへ
とひさまではご二人のこゝろおのかびやらしとぷらなうしやかくら



いさんしかたちとせしかゞせんしやうじんせいはうくるまいりけるつのさゞ
りゐはかもとくひのぞ山のうへまかりあそぶいくをこせいそうちやし
二階んまでとをそこゝひくまでのとゞぎつくさそらわけくだと
まぞしをそかしらるまでそのふしけんとけつ○こうてかくてくれ
ならいうるゐのつらんしてし○どゝもかくうらしこれしんしのことや
あうくゝかれとつかとわくかやおりしめされかんぢらともあふと
とひさえまりまだりんのわしれりこれはこれはしんしてうしさ
中のうしたそかしんかのとかてみのうへの面まてたのつまようのち○
たびのかすゞらのあるべうしとゞひさうづとさあゝりくかうてひさぶ
らちん人たくしてよりうちうつぬれやす十郎どのかちんびや
しれしやうおとゝゑけどともつまうこみともこゑそるかひるいひとや
こゝや山しんのさあこりいさとけつ○かたうしいのあやめぐみうらまうる
つゝさかかへいらかりしをゝつしぬるのをしやくしてせありまとへ
いかたうかしやしかとそくらのなかちけるかのしるへふおかまいだひとし
てかちゝ面あつさぬけとひくぞくつわなとのひらわきおのお
ささ流せはしらつ二もよとおほくしかしまいは面かちくみのを
うよりしてかやせんかくやせまうじとしいのみて面くずまの中のう名を
面りかへたきことみちづさひけりのひきづさんかずまはふかくうる合
かしこゐめかくんかしこはつまるかういうしのびかれびとくる
かおやくみたいしもかへしさとうのわざくくのちてしりお
とうくひゞいんじまうのかそまつる面さしきんつくかつくつれ
みあつかあつしのあとこまつふけうとりよかとたかのかうかきとも
とうゞめとしてかやもとともかゞしぬませいあらかくて十郎しか面
ひへうまでばかとけつ○かさつさらひがつとして十郎しさらし
けまいは十郎とりありきこなかしくおつこざうりあはし〳〵
こまつくかし々面いかとよひかこまうよぽとの面やらくさらへゞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆかりひとりそうぐんにけふそわどもおふされかんにんへくへと
いけのべで、ゆかせはふぐらだんのことさいのかやうたうお
又今らせいの。こむしはむしおはなうをやおかりしひきゝち
てらみてむかのへやうとおしてくさうつゆひくらのくふかへ
さとけ山のうらせできらつ一具たしめがくざくせつどしもし山
ちくそれとのかしきもおくえくめくいちどれともきつ。こ。ぞく
ますみ五郎もろさ。はきしの三郎もゑ。よりごくかれ与一郎た
彼とらたうの六郎とゆ十郎の三郎こさよきはおふ
さし申大ときかしやうとおしへとつゆかはかうつきこのくふ
ふはいかよのみ今ちやうがくちやうみんはんなてしかふくとごて
みくれやまかごとたとしたひろがつきのくふかくたさうもうぐろうへ
とんかさ山かくぞそのぞたまのひしおうれくふくぷおんさいの
あさまかどうてうきかのこうあていろいちうかくこぞうぐろべこと

とうざいとうしりとみのへとかるしぢん八乃すらつこやうくと
おしへどつゆかりきも清きとのくふくはおや由らろ乃をやゆうさ
たかがれまうら恋き目れやさむしみかがしおしりしすれどれ
くでやうくとおしへさうつのねぞがされくふくいぢん今まがちら
やおいきやしどん乃五郎うつげしとや乃もいみきづやさうこし
ざれくうまれぜつおかざれぞらくかへてげがうくふくいぷりはも
らしすぷきえんはやふこうし大すりのうつゝ山ぞとたゝしられくふくは
いしわ由まづみをされくふくいやぞでうちつぞてうおしもりのくふ
うはだくうじしやのせ印ぜてさ乃左五郎よのりとゆくいや由まし
かしりさたつかおしごりぞてきごうしやうくとおしへさうつ由かり
たゝしぢんの入とよいゆうしされ七郎がいごへやろさかおいう一立しむ
ろがんどれた三郎がさ乃をけぶしやうくとおしなしこぜん
そらし八くてぐいどうし七さてくのとふわしどここしせのとうぢ今ぞ

857
92